

天に宝を積む生活

主イエスは、この世における神の民の大切な宗教的務めとしての「施し」「祈り」「断食」に見られるファリサイ的偽善を指摘され、神の前に真実に生きるキリスト者の在り方を教えられた後、今度は、地上の富に対するキリスト者の心構えについて語られる。

あなたがたは地上に富を積んではならない。そこでは、虫が食ったり、さび付いたりするし、また、盗人が忍び込んで盗み出したりする。富は、天に積みなさい。そこでは、虫が食うことも、さび付くこともなく、また盗人が忍び込むことも盗み出すこともない。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。(マタイ 6:19～21)

ここで「富」とは「宝」のことである。ところで、地に宝を積むな、むしろ、天に宝を積み、と主が言われたとき、それはどういうことを意味したのであろうか。それは、キリスト者はこの世のもの(富や財産等)を所有しても追求してもならないとか、将来のために富をたくわえることもしてはならないとか、或いは、キリスト者はこの世の楽しみに関心も興味も持ってはいけないと言われたのであろうか。

そうではない。それは、「あなたの宝のある所に、あなたの心もあるからである」(21節/口語訳)とされていることから分かるように、神に信託するよりも、むしろ、この世のものを「宝」として、それに全信託を寄せて生きる、そのような生き方への警告なのである。

「宝」とは、必ずしもお金や財産のみを意味しない。人が、心のよりどころとし、信託を寄せて生きているもの、それが何であれ、それがその人の宝である。或る人にとっては富や財産が宝となり、或いは、職業や地位が宝となる。或いは成功や名誉が、或いは趣味や娯楽やこの世の付き合いが「宝」となる。そして、人がそれらのものを何ものにも代えがたい大切な宝とするや否や、それはやがてその人を支配するものとなり、その人の「神」となり「偶像」となる。

主イエスは、「地に宝を積むな、むしろ、天に宝を積み」という言葉によって、この世のものが、本来占めてはならない地位を私たちの生活の中で占めることの危険を私たちに警告しておられる。キリスト者は、たといこの世の富に恵まれていても、よい職業や地位についていても、成功と名誉の中にあっても、決して、それらに最終的な心のよりどころを置かず、むしろ、あたかもそれが無いかのごとく、むしろ、それらの与え主であられ、また自分の存在でさえもそのお方に負っている、神ご自身にすべての信託を寄せて生きる、これが「天に宝を積む」生き方なのである。

使徒パウロを通して語られる神の言葉にも心を傾けたいと思う。「この世で富んでいる人に命じなさい。高慢にならず、不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべてのものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜んで与えるように。真の命を得るために、未来に備えて自分のために堅固な基礎を築くように」と(第1テモテ 6:17～19)。